

ごちそう？

1. 鳥が種子を食べる順番

私たちがご馳走、美味しいと感じるのはどのような食べ物でしょうか。牛肉のモモとバラのどちらが好みですか。霜降り肉でわかるように融点の低い脂肪を美味しく感じます。我々の先祖が1万年前まで氷河時代を生き抜くためには脂肪を食べることが必要であった証拠です。

鳥たちの食事はどのように変わっているのでしょうか。昆虫などが少ない冬、何を食べているのでしょうか。鳥の種名がわからなくても、植物の名前がわからなくても、どのようなものを食べているか観察はできます。頭上でパチパチ音がしたり、種皮が雪上に落ちていたりとお会いはかなりあります。

カラスザンショウの黒い皮をかぶった果実の房にはメジロやルリビタキ、ヤマガラ、ツグミなどいろいろな鳥が食事にきます。硬い種子の周りにはカサカサした皮です。アカメガシワやハゼの硬い実もシジュウカラなどに人気です。雪がくるまでになくなってしまいます。一番美味しそうで人気がない



マンリョウ

いはマンリョウの果実です。赤いうえに水分が多く、人間から見ると不思議です。夏になっても残っていることも多いのです。この違いは、硬くて食べる部分がなさそうに見える果実は脂肪が種子の周りについていることで選ばれるのです。鳥も脂肪が大好きということなのです。カラスが墓地からロウソクを持ち去り食べることも知られています。

植物もこの要求に応じて、種子を運んでもらうための果実になっていると考えられています。



カラスザンショウの実とルリビタキ



ヤマウルシの実

2. 倒木上の稚樹

林の中は、樹冠で光が吸収されてしまい薄暗くなります。林床の明るさでも生存できるシダやササ類がびっしり覆ってしまう場所もあります。このような場所では、次代の林を担う高木となる樹種の種子が発芽しても光が不足して生き残ることができません。

どのようにして後継者が生まれているのでしょうか。大木で構成されたシイ林の中、遊歩道脇や八十八ヶ所のような開けたところ、南側のヒノキの植林地、そこにある親木の稚樹がいるのでしょうか。

倒木は上空に光が入る空間を作るとともに下草を押さえつけてしま

す。さらに腐朽していきますと、土壌に替わる栄養供給元ともなり、種子の発芽・成長を助けます。雪が降っても早く融け、長い生育期間を得ることができます。親の遺骸を土台にして、子が成長できる倒木更新と呼ばれるしくみです。ヒノキなどの針葉樹に多いようです。



ひこばえ (萌芽)



倒木上のヒノキ稚樹

シイやタブノキは大きな種子をつけますが根元に稚樹はあまりありません。そのかわり、大きくなった木の株元にはたくさんのひこばえ(萌芽)ができています。親木が倒れたとき、ひこばえがすぐ伸び始め、その中の勝者が大きくなります。萌芽更新と呼ばれます。それぞれどのような戦略で生き残りを図っているか、打吹山を歩きながら観察してみてください。